斎賀　弘孝

・幌延町地域振興アクションプランについて
・幌延町まちづくり推進のための町民アンケート調査について

## 幌延町地域振興アクションプランについて

質問▼平成30年1月の拠点づくり勉強会検討ワークショップにおいて、国道40号を利用するドライバーへ休息を提供すると共に、宗谷地域のゲートウェイ機能、悪天候時の避難箇所などの防災機能等、多様な機能を有する拠点を検討したいとあった。この目的を考えると、新大橋付近にトイレだけでも設置してはどうか。

町長▼平成31年度開催した検討ワークショップにおいて、高齢者及び子どもの交流や生活拠点としての機能を備え、町民の利便性向上を有する機能を重視した、「まちなか立地案」の立地効果が高いと方向付けし、多機能な複合施設を念頭に検討しているため、トイレのみの整備は想定していない。

質問▼カヌー等を利用したアクティビティ拠点整備はどうなったのか。

町長▼拠点を検討するうえで、有益なコンテンツと認識している。

## 幌延町まちづくり推進のための町民アンケート調査について

質問▼第6次幌延町総合計画策定のためにアンケート調査を行ったが、推進のために再度アンケートを行ったのはなぜか。

町長▼新型コロナウイルス感染症により、情勢、動き方、全てが変わってきている。平成31年度のプランに基づき、もう一度意見を聞き、町民の気持ちは変わっていないことを把握したい。

質問▼アンケートの配付は何世帯か。また数と回収はどの程度期待しているのか。

町長▼配布数は広報誌折り込みの9百86世帯。

インターネットでの回答も可能にしているため、総合計画策定時以上の回答を期待している。

質問▼アンケートに同封されていたバイオガスプラントに係る資料では、「飼養頭数が少ない場合、回収できるエネルギーが少なく投資とのバランスが悪い。※150頭以上がひとつの目安となる。」と記載されていた。

これでは、百頭規模の乳牛を飼育する農家を対象にモデルケースとして導入を募っている町としては、不適切な表現となり、誤解を招くのではないか。

町長▼導入者の営農形態に適したうえ、効果をより発揮できるようを想定したプラント仕様を構築する考えである。

他の自治体では、飼養頭数百頭未満の酪農家に導入し、安定的に稼働している事例もある。そのため、百頭規模のバイオガスプラント整備の可能性を否定するものではない。

西澤　裕之

・幌延町深地層研究センターの重要性

## 幌延町深地層研究センターの重要性

質問▼幌延深地層研究センターを所管する萩生田文部科学大臣（当時）が、9月中旬に同センターを視察し、町長と会談したとの報道があるが、どのような内容だったのか。

町長▼本町がこれまで三者協定に基づき幌延深地層研究計画の推進に協力してきた経緯を説明したうえで、引き続き深度5百メートルでの研究を通じて、地層処分研究開発における安全性評価技術の信頼性向上と幌延深地層研究センターを地層処分に関する知識の普及や情報提供の場として、存分に活用してもらいたいことをお伝えした。

萩生田大臣からは、研究協力への謝意に続き、幌延深地層研究センターを中間貯蔵施設や最終処分場にすることなく研究を推進すること、三者協定遵守のもと、安全かつ信頼性の高い処分技術の確立に向けて研究を進めることを改めて約束してもらい、大変貴重な機会となった。

質問▼国が策定した第6次エネルギー基本計画に、幌延に関する記述があると聞いているが、どのような内容か。また、町の評価は。

町長▼本計画は、国が定めるエネルギー政策の基本方針を示したもので、本年10月22日に閣議決定されている。幌延に関する記載については、原子力政策の再構築を図るうえにおいて、高レベル放射性廃棄物の最終処分に向けた取組を抜本強化する方策の一環として記載がある。

関係部分を抜粋すると、「高レベル放射性廃棄物の